

# 第 10 回 中心市街地 復興まちづくり推進委員会

令和 6 年 10 月 7 日（月） 18 時 00 分～

人 吉 市

復興デザイン会議の設立について

# 人吉市まちなかグランドデザイン推進方針



## 第1章 はじめに

① まちなかグランドデザイン推進方針の策定にあたって P1

② 対象地域を取り巻く現況と課題 P1

## 第2章 まちなか グランドデザインの構想

① 「まちなか」が目指す姿 P2

② 基本方針 P3

③ 将来構造 P4

④ 「まちなか」が目指す具体的なイメージ P5

## 第3章 まちなかグランドデザインの 推進方針

① グランドデザインの推進方針 P6

② プロジェクトの進め方 P7

令和6年3月  
人吉市

# 第1章 はじめに

## 1 まちなかグランドデザイン推進方針の策定にあたって

- 趣旨**
- 人吉市は、令和2年7月の豪雨からの復旧・復興のため、人吉市復興まちづくり計画に基づき、官民が連携して復興まちづくりを行っています。
  - そのなかで、特に被害の大きかった「まちなか」(中心市街地地区、青井地区、麓・老神地区)では、地区を横断したまちづくりのため、「人吉市まちなかグランドデザイン」を策定しました。
  - 本推進方針は、まちなかグランドデザインで定められた方針を早期に具現化し、スピード感のある取組が推進できるよう、「まちなか」が目指す将来像とプロジェクトをわかりやすく更新・明示し、市民、関係者間で共有するための推進方針です。

- 達成期間**
- 目標年次を令和12年度とします。
  - 令和9年度に見直しを行います(必要に応じて令和10年度以降は改めて検討)
  - 各施策の進捗に合わせて毎年更新します

- 対象範囲**
- 本推進方針の対象地域は、「中心市街地地区」「青井地区」「麓・老神地区」の3地区と3拠点(人吉市役所、人吉IC、人吉球磨スマートIC)含むエリアです。

### 発災後からこれまでの取組(一部抜粋)



## 2 対象地域を取り巻く現況と課題

### 地域の特性

- 国宝や重要文化財は青井阿蘇神社、老神神社に集中して分布
- 災害復興のため、区画整理、公営住宅の建設、城跡の修復、河川改修などが進む
- 以前から人口減少が進行していたが、豪雨災害により減少が加速化、高齢化率が高い
- 現在の場所またはその近くでの再建を検討する人が多い
- 事業所や従業者数は以前から減少が続き、コロナ禍と豪雨災害で特に宿泊業、飲食サービス業の従業者が大きく減少
  - 卸売業・小売業はこれよりも以前にすでに大きく減少
- 豪雨災害以前に高質舗装、街路樹やポケットパークの整備、建築物の景観配慮がされた箇所が点在
- 青井地区、中心市街地地区は、公費解体が進み低未利用地が大半を占める
  - 豪雨災害前から低未利用地等は増加傾向にあったが、災害後、特に増加

### 人流の特性

- 観光客数は大きく低下しており、観光案内所は従前の2割、人吉城跡は4割にとどまる
- 豪雨災害により「まちなか」に大きな被害、コロナ禍で飲食店などが減少した結果、観光客は青井阿蘇神社周辺のみ集中し、回遊性が低下
- 来訪者からは、川沿いなどに滞留して時間を過ごせることや、定期的なイベント等を求める声が多いほか、夜間の回遊についても期待がある
- 食料品や家電製品は市内購入率が高いが、衣料品、靴、スポーツ・レジャー用品の購入は市外に流出傾向
- 人吉産交、中心市街地、人吉市役所間は1日30本以上の往復バスが運行
  - 人吉インターチェンジから「まちなか」へのバスは1日11往復
  - 交通空白地と「まちなか」を結ぶまめバスは週2日運行

### 課題

- 再建・移住・定住の促進** 豪雨災害により以前から進んでいた人口減少が加速し、低未利用地等が急増した中、**住みやすく、吸引力のある「まちなか」を再構築**する
- 来訪者数の増加** 豊富な観光資源を有しながら来訪者数が十分に回復しない中、3地区が連携し、**観光客を惹きつける「まちなか」**をつくる
- 生業の再建** 従業者数が大きく低下した宿泊業、飲食サービス業、卸売業・小売業の**雇用創出、ひいては地域活性につながる取組**とする
- まちづくり体制の構築** 「まちなか」の取組を**継続的に実施するための体制**をつくる

# 第2章 まちなかグランドデザインの構想

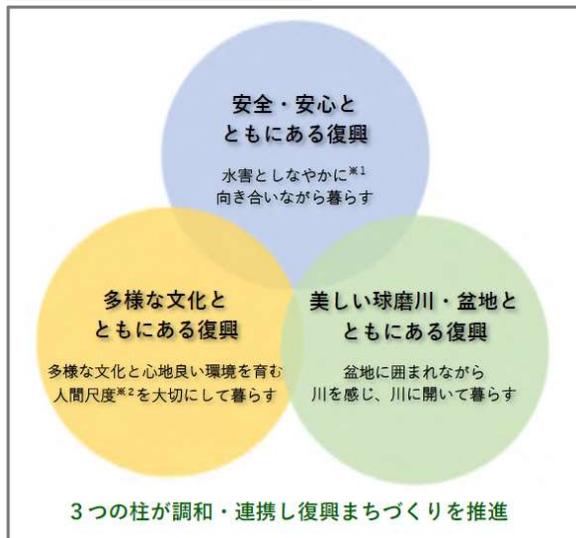
「中心市街地地区」、「青井地区」、「麓・老神地区」3地区である「まちなか」が目指していく姿をまちなかグランドデザインとして示し、持続可能な地域づくりに取り組みます。

## 1 「まちなか」が目指す姿

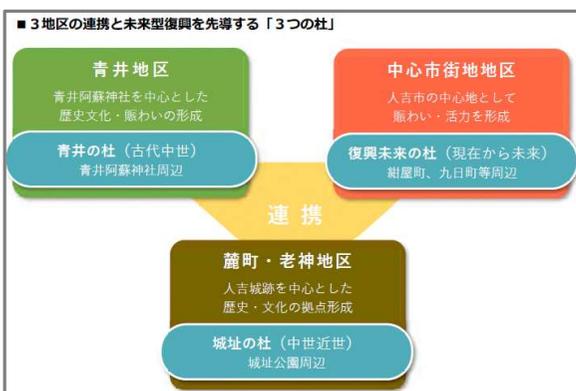
人吉の大きな魅力である相良700年の歴史とともに育んできた「多様な文化」や「美しい球磨川・盆地」の豊かな自然を活かしながら、「安全・安心で持続可能な地域づくり」に取り組みます。

そのため、「中心市街地地区」、「青井地区」、「麓・老神地区」が中心となり、「3つの柱(拠点)」の形成と回遊促進を図り、各拠点が連携して「まちなか」全体の活性化を目指します。

### 基本方針となる3つの柱



### 3地区の連携と未来型復興を先導する「3つの柱」



### 人吉市まちなかグランドデザイン全体方針図



# 第2章 まちなかグランドデザインの構想

## 2 基本方針

人吉市まちなかグランドデザインの3つの柱の基本的な考え方は次の通りです。

### 1. 安全・安心とともにある復興～水害としなやかに向き合いながら暮らす～

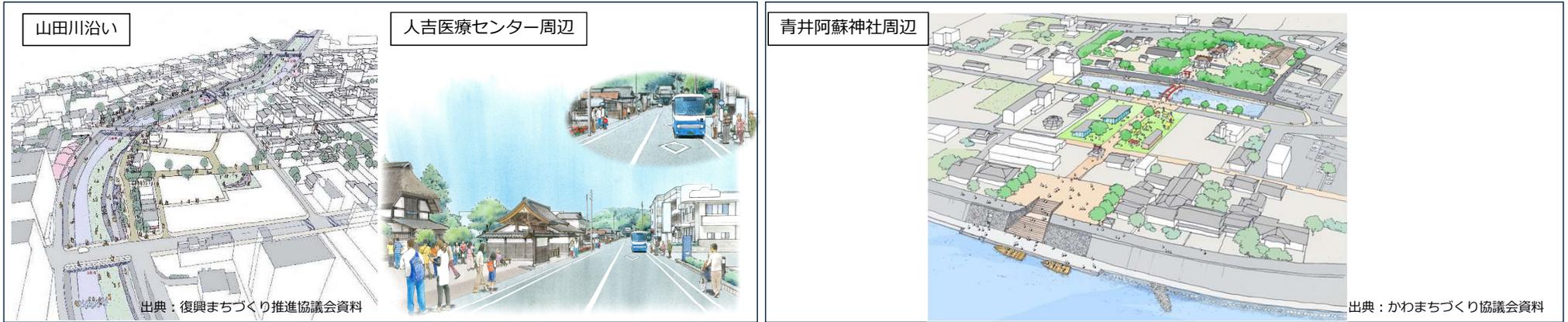
緑の流域治水と一体となった安全・安心な「まちなか」を目指すための考え方

- ①地域の暮らしを再建し、都市活動を支える安全・安心な「まちなか」の実現
- ②空き地、空家を活用し、官民連携の取組を進めることによるエリア価値の向上や地域コミュニティの活性化
- ③持続的で利便性の高い移動サービスの提供に向けた地域公共交通の充実

### 2. 多様な文化とともにある復興～多様な文化と心地良い環境を育む人間尺度を大切に暮らす～

多様な文化を感じ、来訪者が来たくなる、まわりたくなる「まちなか」を目指すための考え方

- ①青井阿蘇神社を中心とした、賑わい拠点の強化と回遊性向上
- ②鶯温泉や山田川周辺を活用した新たな文化の創出
- ③観光を中心とした稼げる「まちなか」実現に向けて、民間投資を呼び込む官民連携の体制づくり
- ④交通結節機能の強化による、「まちなか」への来訪者の呼び込み
- ⑤多様な文化を感じられる人吉らしさや魅力の戦略的プロモーション



### 3. 美しい球磨川・盆地とともにある復興～盆地に囲まれながら川を感じ、川に開いて暮らす～

人吉固有の風土を活かし、時代に合わせたまちの使い方を実現した暮らしやすい「まちなか」を目指すための考え方

- ①市街地内や後背に広がる豊かな自然環境(球磨川などの河川や盆地)の活用や保全
- ②観光を中心とした多様な文化を体現する自然環境と調和した美しい「まちなか」の形成
- ③川を身近に感じ、川に開いて暮らす人吉を実感してもらう魅力の創出

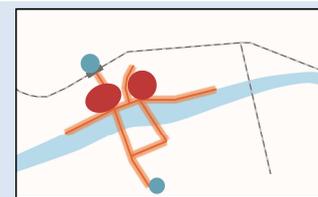
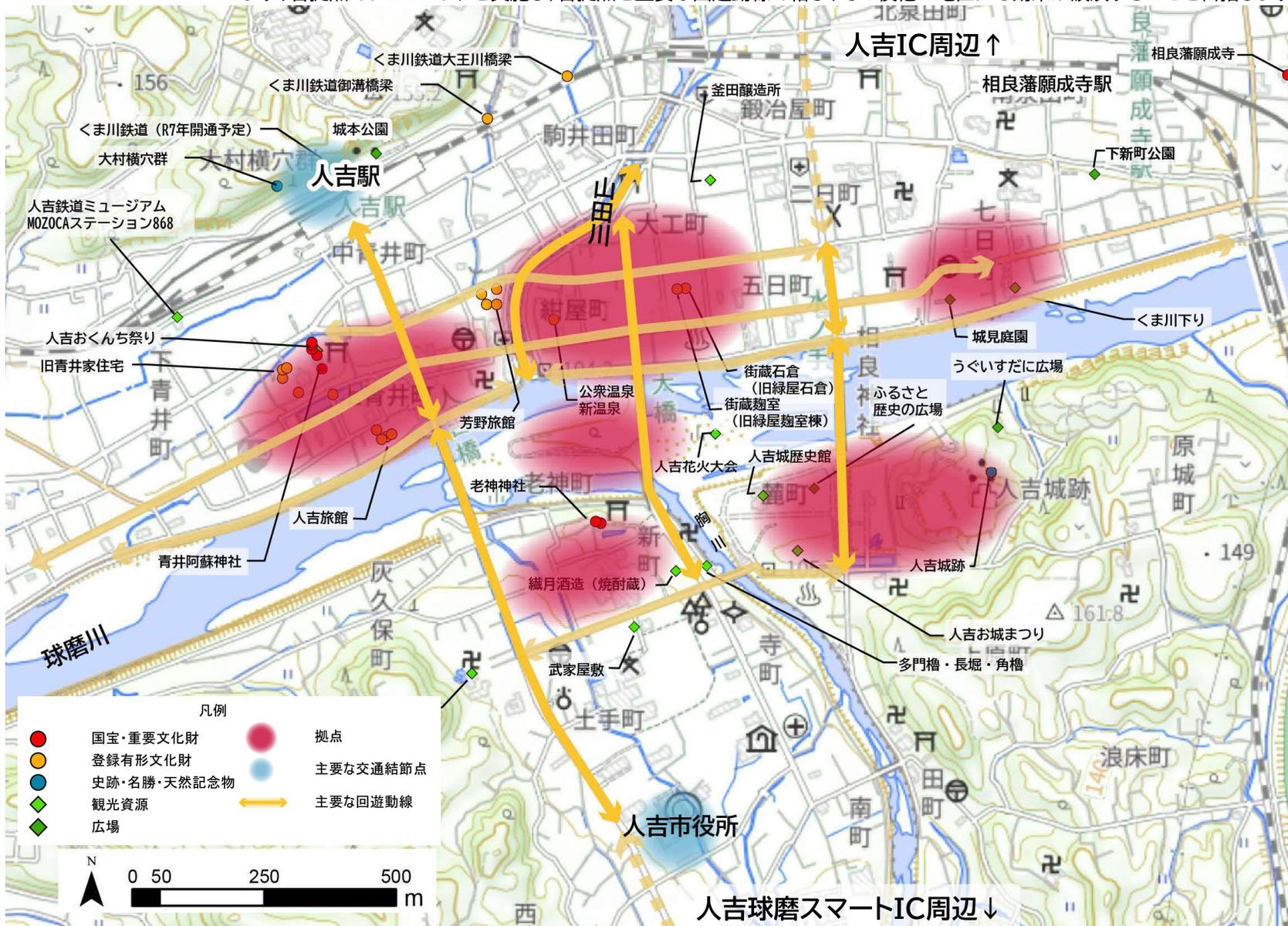


# 第2章 まちなかグランドデザインの構想

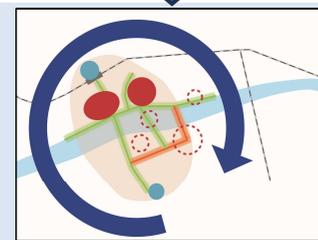
## 3 将来構想

### 将来構想図

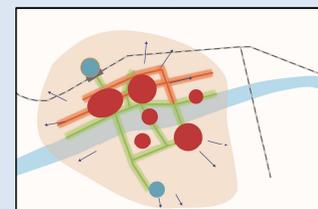
グランドデザインを実現するために特に重要となる、中心市街地地区、青井地区、麓・老神地区の主要拠点と主要な回遊動線を設定します。  
 まず、各拠点でプロジェクトを実施し、各拠点を主要な回遊動線で結び、その後他の地区にも効果が波及することを目指します。



**主要拠点および主要な回遊動線の設定**  
 地域資源があり、事業・取組が行われているポイントを主要拠点に設定し、拠点間をつなぐ主要な回遊動線を設定し、順次整備



**回遊性の向上**  
 各拠点でのプロジェクト、および拠点間を主要な回遊動線で結ぶためのプロジェクトを実施することで、回遊性の向上につなげる



**「まちなか」への波及**  
 回遊性の向上により、拠点周辺だけでなく、「まちなか」全体で持続可能な地域づくりを実現する。また、「まちなか」周辺の地区への波及も目指す

## 4 「まちなか」が目指す具体的なイメージ

基本方針と将来構造が実現し、3地区の連携と未来型復興を先導する「3つの杜」の未来予想図は次の通りです。「まちなか」3地区が連携し、「3つの杜」を中心に様々な取組が実施され、人々が憩い、楽しんでいる様子が見られ、住みたく訪れたい「まちなか」が広がっています。まちなかで様々な取組が進むことで、この未来予想図はバージョンアップを続けていきます。



パースは整備イメージです。  
今後、詳細を議論するため、変更する可能性があります。

# 第3章 まちなかグランドデザインの推進方針

## 1 グランドデザインの推進方針

### グランドデザインの基本的な進め方

グランドデザインは、2つの視点と5つの基本的な進め方を大切にしながら進めます。

#### 【推進していくための視点】

- 「まちなか」の価値を高めるために公民連携で取組を推進します
- 地域での使い方、利用者や運営の担い手を明確にしてからハードを整備します

#### 【基本的な進め方】

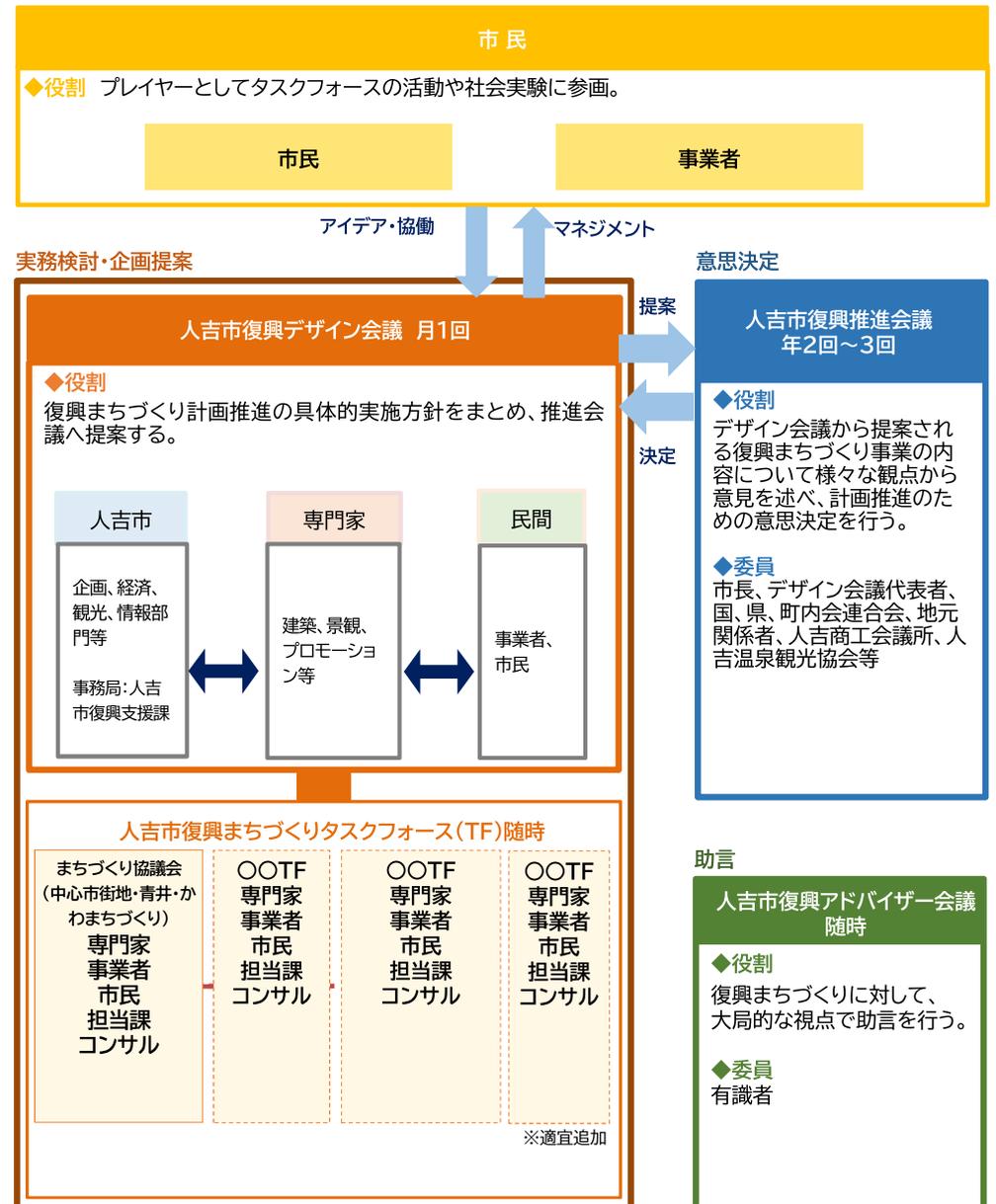
- 1 地域活性や雇用創出につながる取組とし、民間投資を呼び込みます
- 2 官民間わず、地域人材を発掘・育成し、活躍してもらいます
- 3 まずは小さく始めて、大きく育てます
- 4 人吉の魅力を積極的に情報発信します
- 5 毎年アップデートしてまちとともに成長する計画とします

### プロジェクトの進め方

#### 考え方

- ・ 復興まちづくり計画では、官民が連携した復興を目指しており、現在は、土地区画整理事業や河川改修などの都市基盤整備が先行
- ・ 「まちなか」が目指す姿を実現するためには、各拠点での取組を着実に進め、3つの柱が調和・連携した取組にしていくことが必要
- ・ 今後、できあがった都市基盤を有効に活用し、地域活性や雇用創出につなげ、民間投資を呼び込んでいく必要がある。そのため、「地元主体の公共空間活用事業を推進するための検討・社会実験」を進めるなど、準備出来たものからまず始めてみる事が重要
- ・ 「まちなか」3地区で検討準備ができたものから順次、社会実験を行い、事業化に向けたチャレンジを進めます。
- ・ 新たなプロジェクトの検討、立ち上げは、「人吉市復興デザイン会議」が担います。
- ・ 事業の具現化は「人吉市復興まちづくりタスクフォース」が担います。
- ・ プロジェクトに関連する地域人材を発掘・育成し、市民や関係者を広く巻き込みながら、公民連携により取り組みます。
- ・ 注目度を高めるため、プロモーション活動にも積極的に取り組みます。

### プロジェクトを実現するための人吉市復興デザイン会議の座組み

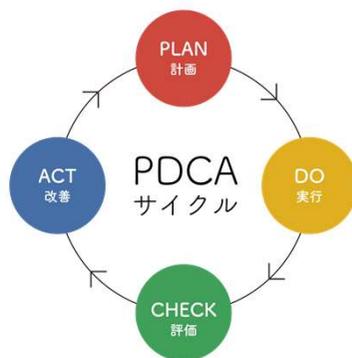


# 第3章 まちなかグランドデザインの推進方針

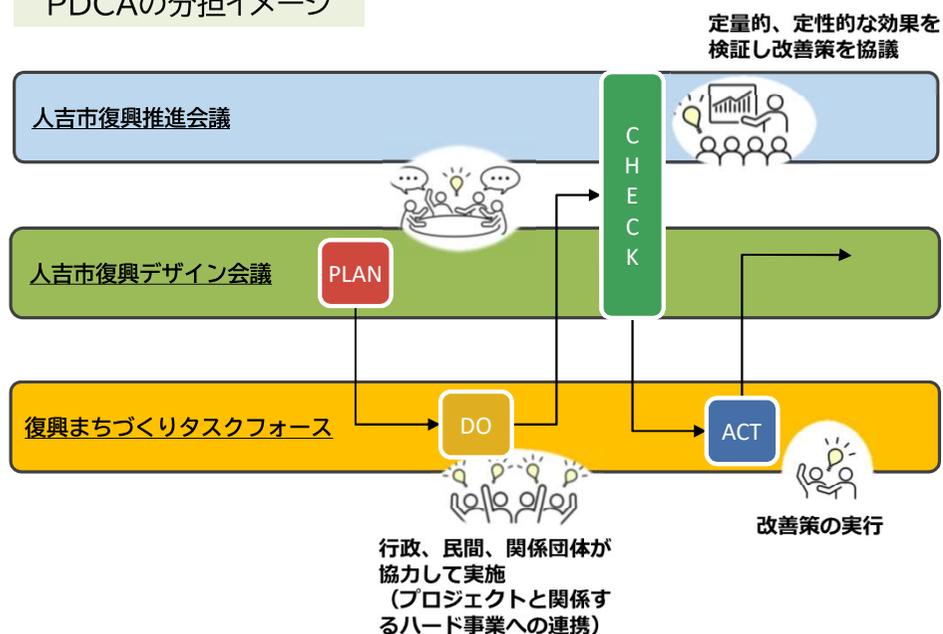
## 2 プロジェクトの進め方

### 期間

- プロジェクトの進め方は事業等の実効性を高めるために、令和6年度から令和9年度までの短期的な計画期間とし、まちづくりの進捗や社会経済状況等の変化、市の施策展開にあわせてPDCAサイクルで計画管理を行います。



### PDCAの分担イメージ



### 目標設定

- 推進方針の効果を計測するため、総合計画で用いる数値指標を活用します。

成果指標（候補案）	現状値（令和4年度）	目標値（令和9年度）※	備考
居住人口の市全体に対する割合（青井地区）	1.4%	1.6%	第6次人吉市総合計画（後期基本計画）案
居住人口の市全体に対する割合（中心市街地地区）	1.2%	1.4%	
年間宿泊客数	87,610人	217,000人	
年間日帰り客数	667,071人	1,283,000人	

※目標値は災害前の数値を採用しており、災害前の状態に戻すことを目標としています。また、タスクフォースによるプロジェクト立ち上げの際にも各プロジェクトに成果指標を設定します。

復興まちづくり推進会議

人吉のエリア価値向上に向けた公・民の取組に関する最終意思決定機関

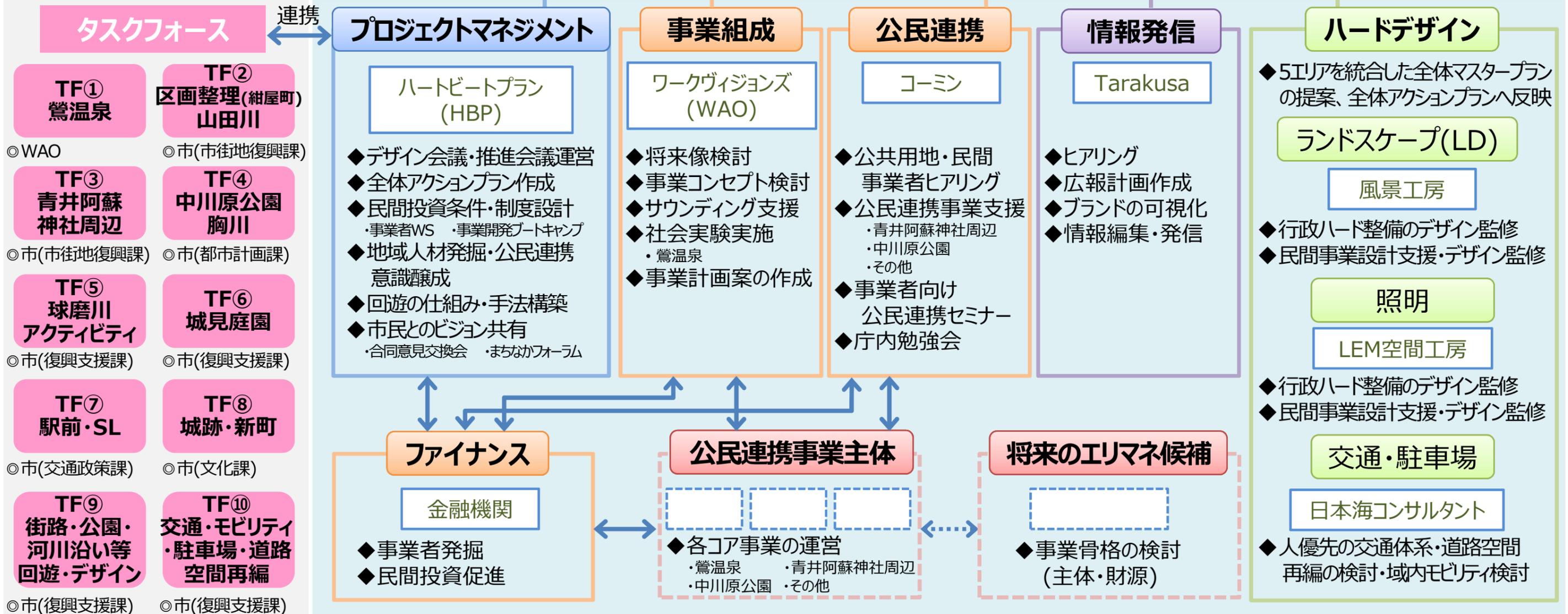


復興まちづくりデザイン会議

公・民の実施する事業のクオリティコントロール、継続的なエリアマネジメントに向けた具体策の提案



方針提案 事業者活用アイデア ↑ ↓ コーディネート



TF① 鶯温泉 ◎WAO  
 TF② 区画整理(紺屋町) 山田川 ◎市(市街地復興課)  
 TF③ 青井阿蘇神社周辺 ◎市(市街地復興課)  
 TF④ 中川原公園 胸川 ◎市(都市計画課)  
 TF⑤ 球磨川 アクティビティ ◎市(復興支援課)  
 TF⑥ 城見庭園 ◎市(復興支援課)  
 TF⑦ 駅前・SL ◎市(交通政策課)  
 TF⑧ 城跡・新町 ◎市(文化課)  
 TF⑨ 街路・公園・河川沿い等 回遊・デザイン ◎市(復興支援課)  
 TF⑩ 交通・モビリティ・駐車場・道路 空間再編 ◎市(復興支援課)  
 TF⑪ 情報発信 ◎Tarakusa

事業者活用アイデア ↑ ↓ コーディネート

合同意見交換会 / 事業者WS / 社会実験 / 関係者調整・関係機関協議

# 人吉市復興まちづくり推進会議 委員名簿

資料 1 - 3

	氏名	所属等	関連分野
1	松岡 隼人	人吉市長	行政
2	柴田 祐	熊本県立大学 教授	学識経験者
3	吉田 力	東校区支部 支部長	地域代表
4	中村 良郎	西校区支部 支部長	
5	皆越 英世	人吉市消防団 副団長	防災
6	岩下 博明	人吉商工会議所 会頭	商工
7	鳥越 英夫	人吉温泉観光協会 会長	観光
8	井上 道代	人吉市文化財保護委員会 委員長	歴史文化
9	福川 義文	青井阿蘇神社 宮司	
10	永田 政司	人吉市PTA連絡協議会 会長	教育・子育て世代
11	北 貴之	一般社団法人 ひとよし球磨青年会議所 理事長	青年層
12	松岡 隼人	人吉市社会福祉協議会 会長	地域福祉
13	飯島 直己	国土交通省 八代河川国道事務所 所長	行政
14	田口 雄一	熊本県 球磨地域振興局 局長	
15	中川 太介	熊本県 球磨川流域復興局 政策監	

事務局

	人吉市復興政策部復興支援課	
--	---------------	--

人吉市復興まちづくりデザイン会議 委員名簿

資料1-4

No.	区分	所属	職	氏名
1	座長	国立大学法人熊本大学	教授	星野 裕司
2	プロジェクトマネージャー	人吉市復興政策部	部長	溝口 尚也
3	プロジェクトマネージャー (令和6年度人吉市復興まちづくり推進等業務委託の受託事業者)	有限会社ハートビートプラン	代表取締役	泉 英明
4	リノベーション・事業組成 (人吉市中心市街地地区公共空間活用事業検討業務委託の受託事業者)	株式会社ワークヴィジョンズ	代表取締役	西村 浩
5	ランドスケープ (人吉市まちなかランドデザイン推進業務委託の受託事業者)	株式会社 風景工房	共同代表	増山 晃太
6	夜間照明 (人吉市まちなかランドデザイン推進業務委託の受託事業者)	株式会社LEM空間工房	代表取締役	長町 志穂
7	公民連携 (人吉市中心市街地地区まちなか再生業務委託の受託事業者)	株式会社コーミン	代表取締役	入江 智子
8	交通 (人吉市まちなかランドデザイン推進業務委託の受託事業者)	株式会社日本海コンサルタント	社会事業本部 計画研究室 担当室長	片岸 将広
9	情報発信 (人吉市まちなかランドデザイン推進業務委託の受託事業者)	tarakusa株式会社	代表取締役	柿原 優紀
10	地域への強い想いと実行力を持つ者	球磨川・人吉地区かわまちづくり実行委員会	会長	有村 充広
11	行政	八代河川国道事務所 流域治水課	課長	一ノ瀬 誠
12		球磨地域振興局 土木部	副部長	池田 純一
13		球磨地域振興局 工務第一課	課長	満田 好昭
14		球磨地域振興局 まちづくり工務課	課長	石村 祐貴
15		球磨川流域復興局	課長補佐	木村 博之
16		球磨川流域復興局	参事	平木 佑弥
17		人吉市復興政策部	政策統括監	緒方 竜二
18		人吉市復興建設部	部長	立場 康宏
19		人吉市経済部	部長	淵上 聖也
20	アドバイザー	公立大学法人熊本県立大学	教授	柴田 祐

事務局	人吉市復興政策部復興支援課
-----	---------------

